

## モミジか、それともカエデか

「R君、おはよう！」  
登校した一年生のR君に、私は声をかけました。

彼はあいさつを返すと、前屈みになって何かを拾いました。その行動に私は興味を持ち、何を拾ったのか知りたくなりました。彼が手にしたのは、昨夜からの雨で一気に散ったモミジの葉でした。その日無数に散らばった葉の中から、彼は足下にあった一枚を拾って、横断歩道を渡りました。

彼のその行動に、私は感動しました。木にとどまって見事な彩りを見せているときには感動を集めるモミジですが、散ってしまえば、風に吹かれて飛んでいくだけで気にとめてもらえません。儂（はかな）い葉にも小さな感動をみつけ手にしたR君は、実に素直で純粋なものだと思います。

彼は感動を素直に行動で示しました。しかし、私は「よく拾ってくれたね！」と褒めるのも何か変だと思い、思わず質問という形で彼に感動を伝えました。

「おっ、それはモミジなの？それともカエデなの？どのように区別するのか、知ってる？」

「……」

「よし、調べておいで。どうやって区別するんだろうね。」  
いきなりの私の質問に、彼はびっくりしたようでした。おまけに宿題までもらってしまって、彼は困惑したようでした。

（R君、ごめんね！）彼は学校への坂道を登っていききました。

途中、何回か前屈みになるところを見かけました。二枚目三枚目の葉を拾いながら考えていたのかもかもしれません。

葉に深い切れ込みがあり、てのひらを平らに広げた形をしているものが「モミジ」、切れ込みが浅く葉先が細かな形をしているものが「カエデ」とされているようです。

万葉集の歌の中に詠まれていた「蛙手（かえるで）」がカエデとなったとされ、確かに切れ込みが浅いと、蛙の手足のよう

に水かきがあるように見えます。  
更に、二つを区別するのは日本人だけです。「カエデ科カエデ属」という分類の中に、「モミジ」と呼ばれるくくりが日本にだけあります。つまり、風情を重んじる日本人が、切れ込みの深いものに「モミジ」という特別な名前をつけたのです。

偉そうに解説する私ですが、実は、このことは本校務員のHさんに教えてもらいました。一枚の葉から、風情を大切に作る日本人の話になってしまいました。R君が困ったままだと申し訳ないので、彼には明日、このことを教えたいと思います。

（十一月十九日 記）



イロイモミジ

ハカチノカエデ

